

## 第1回スモールコンセッションの推進方策に関する検討会 議事概要

1. 日 時：令和5年11月14日（火）13時10分～15時00分

2. 場 所：国土交通省合同庁舎2号館12階国際会議室、オンライン（Teams）

### 3. 主な議事及び主な発言

- (1) 横山委員が座長に選任された。
- (2) 事務局からの説明、川口委員及び入江議員からのプレゼンテーションの後、委員による意見交換（議題「スモールコンセッション推進上の課題や取組について」）が行われた。委員からの主な意見等は、以下の通り。
  - エリアリノベーションを前提とするならば、エリアの選定や核となる施設の選定について、地方公共団体内でコンセンサスが取れていなければいけないのではないかと。
  - 官民連携の相手方となる民間事業者が探し当てられない場合がある。どのように事業者と出会えるかも課題の一つ。
  - 行政は、計画や政策から細分化して各種プロジェクトに落とし込むプロセスを踏む場合が多い。政策がない状態でプロジェクトを立ち上げて推し進めると、周りの人たちへ情報がなかなか伝わらないところがある一方で、少人数で動けることから計画策定からいくと2～3年必要なところが数か月で達成できるメリットがある。
  - コンセッションの場合、多くの地方公共団体ではやったことがない、何からしていいのか分からない、どういった手続きが必要なのか分からない、といった状態である。最低限の要件をクリアした上で、従来の公共発注とは異なる動きをしたり、庁内や議会での意思疎通を図ったりする必要がある。
  - 自身が行った事業における一番の課題は資金調達。金融機関からは議会が通らない、市長が変わるといった政治リスクも言われたが、市が20年借り上げてくれるという安定的な収入もある。行政の伴走が前提だが、各地方にこういうことを相談できる金融機関や官民連携事業に関するプロジェクトファイナンスがあるといい。
  - 民間事業者、特に資金面が大手企業に比べて強くない地域の事業者に入ってきてもらうには、地方公共団体に対して資金面の担保を強く求めることも重要となる。
  - 通常 PFI のプロポーザルの際には、金融機関に関心表明書や融資確約書といったコミットメントを求められて、それが行政側の審査において加点項目になる。また、代表企業や構成企業と付き合いのあるメインバンクのいずれかをプロジェクトの仲間にしているのが実際のプロジェクトファイナンスでは一般化している。

- 資金調達における政治リスクについては、スモールコンセッションだけでなく通常のPFIでも共通した課題。実際、地方銀行でも、プロジェクトファイナンスの経験は少なく、聞かれてもわからない、プロジェクトの良し悪しの判断がつかないというのが実態ではないか。金融機関側の能力を上げていく必要がある。金融機関同士の課題共有や勉強会、情報共有をプラットフォームの中でできれば良い。
- エリアの価値が高い地域では、相続したら空き家はすぐに売却されて壊されて、新しい住宅が建ってしまう。民間が所有している空き家や古民家をどう保存・利活用していくかという点も課題である。
- 地方では若い世代で色々な活動している人たちが増えており、社会性と公共的なマインドを持っている面白い人材を地元で発掘することも大事。
- 地方公共団体職員に新しいことに挑戦していくような人材が少ないことや、公的不動産の管理がちゃんと行われていないことは、官民連携の課題である。本当に公共施設の現状ということを知らない方がたくさんいるのではないかと。公共施設を組織横断的に見られる部門があった方がいい。
- 民間事業者との出会いは偶然だが、小さい出会いを大きくできるかは人材次第。
- 異動してきた職員がいきなり利活用と言われても難しい。公共施設の現状をしっかりと理解して、施設の良さや立地が分かる職員が関わることが大事。自治体として取り組めそうなエリアや施設を決めて動ける人材が必要。
- 全ての施設をスモールコンセッションで利活用することは不可能。どこまでを受け入れて、行政が担保して民間に再流出させるか考えることがスモールコンセッションの出口戦略につながる。民間はこのエリアや物件は投資したらいけそうかが分かっているので、その戦略を民と一緒につくれるかが、特にエリアという観点からは必要。
- 今日の議論では、ファイナンス調達の問題、官民マッチングの問題、対象の問題、官民連携の体制の問題などの課題が出てきた。
- 自治体では、手に余る公有財産のアセットマネジメントを担う体制が整えられていないので、すぐ売却してしまう。利活用のアイデアがなかなか出てこない。行政職員の弱いところだが、コストカットにばかり目を向けていかに歳入を増やすかというところに目がいかない。将来に渡って長年の歳入をどう増やしていくかといった発想やスキルがない。
- 地方公共団体の様々な課題から、どういう体制、方策があるか先入観なく考えていきたい。PFIはこれまでも既存制度の枠組みを超えて発展してきた。従来のやり方に拘らずに変えていく気概を持って、本検討会において検討していきたい。

以上